四聖坊記 戊午 一

A 90
264

東京帝國大學圖書印

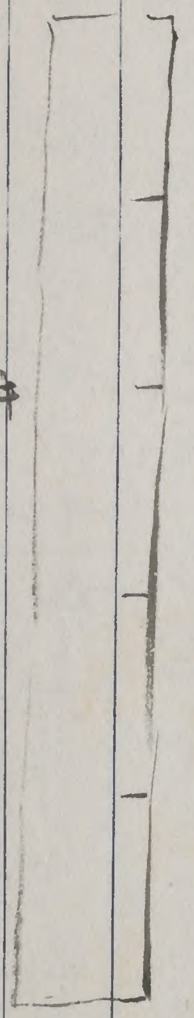
B 23475

0004320347

四聖坊雑聞

○正倉院、天平勝寶八年光明后藏聖武帝遺物、至今千二百年、天平寶字五年藏物中間、建久四年謂之中倉、明治五年整理、及識四十一年使館總長管之、

○本庄氏藏廣儷銅尺、建初六年八月十五日造、



原尺

半

○葛 ツヅラ 防己 △杞柳

○鉸具 カコ、ミヅヲノガネ、ミヅハ金ニテ針ノミズ、ヲノ緒、ビジョウ

鑷 鉸具頭カコガシラ、鑷タコガシラ、平鐙

○夾纈、絽断板ニハサミ左右相對文ヲ印ス 﨟纈 臈ニテカコヒ文ヲ印ス 絞纈 シボリ 揩布 拓本ノ如ク印ス 平ヒタ、鑷匹田

○反正允恭間空位一年ノ有無

○坊目考、記南都事

○装潢匠刻畫為二葉、矢印影、セーロヒー

○高木敦友考證、鞠與鞦之制、得古法、

○熊川 コモガヒ

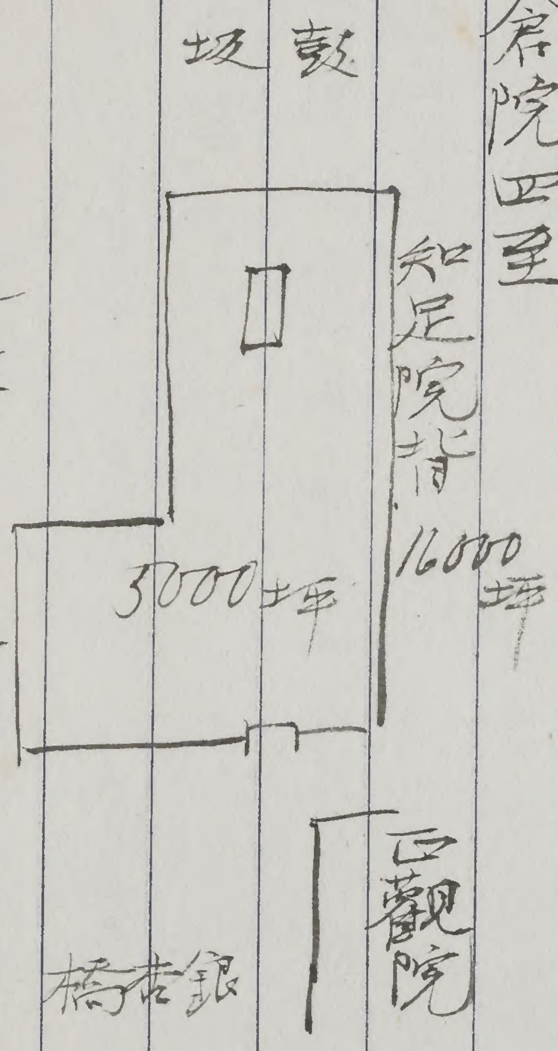
○加賀豊三郎、住麹町區、多蔵書、

○京書估、三條山田茂助、寺町丸太町陽彙文堂

○白水庵觀阿

○西遊真詮烏雞國王事、似 Hamlet 傳說、可檢、

○正倉院四至

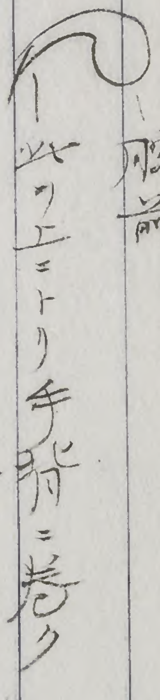


○猪熊朝磨、故實家

○胡簶ヤナグヒ 矢多ク插ス 靫ユキ 矢二本插ス

○防己 ツヅラフヂ

○靹



○梓 ヨグソミネバリハ其質櫻ヨリ堅シ

○聖語蔵 經五千巻アリ
工二人ヲ役シ五年ニシテ四百巻ヲ修理ス後五十年完
成スベシ

○褠 チハヤ

○舩氏墓誌

○延喜式ヲ刊セシ齊恒ハ松江侯ナリ

東大寺古屏銘

光明皇后所作

種好田良易以得穀　君賢臣忠易以至豐
諂諛之語多悅會情　正直之言倒心逆耳
正直爲心神明所佑　禍福無門唯人所招
父母不愛不孝之子　明君不納不益之臣
積貪長樂濁富恒憂　孝當竭力忠則盡命
君臣不信國政不安　父子不信家國不睦

大西源一、伊勢相可人、撰神宮史
松岡明義、故實家、乃木希典ノ師ナリ
稲葉通邦、美濃人
高田某、装束師

東山文庫
京都御所ニアリ侍従職管其事

名物ノ書
村家方、郷藥本草ハ朝鮮ノ書ナリ
類聚名義抄ハ観智院本アリ
楊子漢語抄ハ和名抄中ニ引ケリ

○靈龜亭和歌集　北浦定政

畝傍山東北陵
畝火なる橿の尾上に玉襷掛てしめけむ日はなのうかり

懐舊
み民おか田に但れそや青丹よしならの都は跡方もなし

富士山六月十五日當座
水無月の望なからせは不二の山に神代の雪もけのこらましを

故師富田泰州ニ云
中島萬尚　松森孝美　入交守一　荒重川重郷　吉田道高
萩ノ屋秋蔵

正陵

大和国高市郡山本村内洞村字丸山

偽陵

同　山本村ミサンサイ又神武里又神武田

国源寺

文久三年春ヨリ起工シ

阿部照任

字伯重、稱友之進、號將翁軒、宝暦二年歿、

系譜

丹鶴外書大系圖畫引便覽

許捨顏用

瓢ノ銘ニアリト石黒忠悳語ル

而潤會

古川潤吉ノ記念ニ立テタリ

副島種臣全集

興業銀行ノ水町袈裟六校刊ノ事ニ與ル

宮島大八

善書

勞富

大戴礼云、慎之勞、勞必富、

逹磨賛

刻作九年弓、盃中蛇影猶存、蹋脱一隻履、身後悪跡難討、

松方氏美術館

松方コウジラウノ美術館ハ仙臺坂ニ立ツルナラム英人Brangwin設計ス

後嗣未世

新序云、嗣後嗣、覚未世、

岳雪樓書畫記

図書館無、

印刷 奈良明新社

楊太史

名用修、

谷川士清手澤本

日本書紀十五巻、津和野町加部巌夫献図書寮、牛込南町二十番地宮崎幸麿外之、

海軍文士

水野某、谷口某、

有職家

関保之助、後藤守一

張秋谷

有飴山堂文集、

松村武雄

神話学者

カレヒ、ヒラメ

カレヒハ右黒クヒラメハ左黒シ

ヒサカキ

化学試験紙ヲ作ルニ堪ヘタリ

御製

爐火、ウツミ火ノモトニヨリソフヒマツナキ世ノタメハ

カル事ニシケクシテ

ヒヲリノヒ

右近ノ馬場ノヒヲリノヒハ引折ノ日ナリカチムノ袴

ノソバヲトルナリ

子ノ日ノ松

古ハ松ヲ食ヒヌト云フ説アリ朗詠集ノ訓ヲ誤読

セシヨリ出ヅ

本多テンジヤウ

九鬼隆一云ク善書者ト

昭憲　附英照

中宮ナリ後皇太后ト追諡ズ英照ハ女御ニテ贈皇太后ナリ

森戸祥

祐筆

津田邦儀

字鳳卿、稱亮之助、加賀人

貝類蒐集者

平瀬某

ヲガタマノ木

三年町圖書寮ノ庭ニアリ

昆蟲學者

岐阜ノ永野菊次郎名和研究所ヲ營ム三橋信治合

類ニ長ズ

多紀氏

元胤、紹翁、柳沂

元昕、兆燾、曉岡、元胤子、

典籍秦鏡

内閣本

民國畫家

蘇州ノリクレンフ山水ヲ作ル

呉昌碩 花卉ヲ作ル

古版本

岡本保孝ニ官板考アリ吉田篁墩ニ活板經籍考アリ片野邑平ノ青邨遺稿ニ鑒定ノ事アリ

畫一元龜

明應版論語　正平覆刻カ

賢所

神殿、初八神殿　掌典補奉仕

内侍所

皇靈殿

（内侍所・皇靈殿）内掌典奉仕

鈴ノ役ハ掌典長勤ム數九十一

心栗ニ櫻、山吹アリ

10〈加製

樂東遊ヲ奏ス

佐伯文庫

豐後毛利高標ノ文庫ナリ

漆桶萬里

撲梅花無盡藏

墨

上品ヲ頂貢烟ト云ヒ中品ヲ清烟ト云フ

人名

文同、與可、有丹淵集

陸九淵、象山

陸宣公、贄

顔魯公、真卿

林逋、君復、和靖

張耒、文潜

遠藤但馬守胤統

福井丹波守、五月十九日與書頼襄観灯、

下記四人　外崎覚蔵書中人名

東秋颿蘭洲　泥斎燕児

李井庵、京人

臨池堂風阿、青蓮院門人

宸翰

崇光

後鳥羽　有歌截

後小松　有短冊

古松軒

畫巻ヲ作ル名辰、字子曜、稱平次兵衛、備中人、居岡田村、

刀剣會

隈部某刎立シ内匠ノ金ヲ賜ハリシヿトアリ

箜篌

袁宏道楽府、二十五絃彈ト〳〵、

長慶院

花園	一三一九	＞二〇	義良、憲良、儀義、ノリヨシ
後醍醐	一三三八		
後村上	一三三九 一三六七	＞二九	寛成、ヒロナリ、ユタナリ、慶寿院法皇
長慶	一三六八 一三八二	＞一五	新葉集宗良御子海門承朝 正平二十三年三月即位 弘和三年（永徳三年）譲位
後亀山	一三八三 （一三八三） 一三九二	＞一〇	熙成、良成、ヨシナリ（ヒロナリ）
後小松			

右自八代氏論文抄出

文集

宋琬　安雅堂集

陳維崧　湖海樓集

湯斌　湯子遺書

朱鶴齡　愚庵小集

汪琬　鈍翁類稿

田雯　古懽堂集

厲鶚　樊榭山房集

錢大昕　潛研堂文集

姚鼐　惜抱軒集

阮元芸台　揅經室集
方東樹　儀衛軒集
錢林　文獻徵存錄
李桓　國朝耆獻類徵
崔東壁　考信錄
康有為　孔子改制考、新学偽經考

人物

山中笑、古錢家
藤田豊八、刊書于支那、
高田竹山、著古籀篇

高島氏、蔵石若
江見氏、蔵石若
田中勘兵衛、蔵古文書
山名繁太郎、貫義子
橋本吉兵衛、元吉齋、尾道人
岡田某、動物学者、曾在朝鮮濵尾新知人
佐々木資敦
寛永中ノ書家ナリ或ハ藤木敦直ノ門人佐々木志津磨
ト同人ニハアラズヤ

略説

帝國圖書館本ハ弘安二年奥書本ヲ寫シタルモノナリ

伊藤氏

良有 蘆岸 ― 良之 竹塘 ― 顧也 京都東堀川出水南住
　　　　　　　　　　 ― 琢也 亡 ― 女
　　　　　　　　　　　　　　　　 ― 女
　　　　　　　　　　　　　　　　 ― 男

外崎覚

初名工藤覚蔵、明治九年十一月北狩ノ日十八歳ニシテ
上表ス

本州家等

伊藤伊兵衛、撰地錦抄

阿部照任、重出

北村援琴、撰築山庭造傳

松平頼寛、撰菊經

松平君山

山岡守全

杉山維敬

栗本瑞見、丹洲

飯沼尋吉、慾齋

澀江長伯

水谷助六、撰物品識名

市橋長昭

蔵書家、仁聖寺

荒木虎太郎蔵幅

江月 宗玩

丹嵓 楊聯桂

栗山 謝谷文晁癸亥十二月壹日畫富士

舜水

北斎 十二支

探幽 横巻

王武 牡丹

竹田 田舎児

呉春 ソヘテ見ル筆ノスサヒハタクヒナヤ通知タクヒナヤ

イロトル枝ノ卫三栗三柳

蘐斎詩話

史忠、字廷直、金陵、貪嫁女云云

偽撰書

西野コカイ

澤田源内

棘鬣魚

英語 Snapper

日本紀校者

洛汭野子三白ト署ス

畫家

吉川レイスチ一、土佐畫師ニシテ學殖アリ

高千穂宮

腐蝦原（サイトノハラ） 中村某、三浦某ノ說

宮崎宮 谷口某ノ說

中興鑑言打聞

水仁ノ書ナリ

10（加）

片假名異體

ア ヒ	イ ヲ 丰 ナ	ウ	エ	オ
カ	キ ヽ ち	ク ロ	ケ 介	コ フ
サ セ	シ く	ス 久 爪	セ 弋	ソ 丷
タ	チ	ツ 川 川	テ チ	ト
ナ 示	ニ 仁 尓	ヌ	ネ 尒	ノ 了 う
ハ	ヒ 匕 ヰ	フ	ヘ て	ホ 〒 字 小
マ 万 万 フ	ミ ア 刀 タ	ム 厶 乂	メ 乂	モ 毛 ヒ
ヤ	上	ユ 工	エ	ヨ ら
ラ	リ	ル	レ れ	ロ 乂 六

ワ ワ和己　ヰ キ右　ウ　ヱ 己由　ヲ 山于尼

薗田守良
伊勢ノ祠官ナリ令ヲ註ス

植物
ナンキンハゼ 烏桕子
蒴朮毎四、

針法
針灸捷径、載針法秘旨云、
蒼竜先擺尾　赤鳳後揺頭
上下深摩按　關節自通流

一切経音義
平安朝中期ノ古鈔本ヲハ楫榅邨ガ好古社展覧会ニ出陳セシコトアリイカニナリユキケム

現在國史家
萩野、三上、黒板、和田、横山 [illegible] ナリ
遐邇貫珍
討ヌベシ

佐々木忠三郎
清川八郎ヲ暗殺セシ者トユフ

大和陵墓
神武ノ陵洞村ニアリトユフ説アリ綏靖ノ陵別ニアリトユフ説アリ大安寺ノ古墳ハ不比等ノ墓ナリト

云フ説アリ

杉岡道泰

大和ノ人ナリ狂歌、金持ガヨイトハ知レド我ハマヅタヾンニツイテ貧乏シテヰル

柹

御所柹ハ扁ニシテ赤茄子ニ似タリ豊岡柹ハ尖頂ナリ御所柹ノ似而非者ヲニタリト云フ

乾腐

木材ノ乾腐ヲドライロツトト云フ

内藤真守

越後國中頸城郡潟町村人ハ曰不可新聞紙汚瀆至尊影像一也、不可以元號爲店號二也、不可禁讓位三也、不可祕喪四也、不可店號ニ皇太后五也、

榜

タクトヱフタコノキ即メカウゾトモ常ノカウゾトモ云フ

年保己

式ノムホコ未ダ考ヘズ

楠本孚嘉

隨得錄中云、父在子即位、不可也、父死子攝可也、又云、贈位贈官從祀郷祠皆俗礼屈文耳

實事求是

實事求是ハ漢景十三王河間獻傳ニアリ爲善最樂ハ漢東平王蒼蒼孝明語ナリ慊堂曾之ヲ連書ス

朝鮮文ノ來何日ハ猶來月何日ト云ハムガゴトシ
來何日

葉東ノ家
高倉ハ山階ナリ

スガノ山
萬葉スガノ山ハ越中國射水郡ニアリ スカハ沙処カ
今ハ亡シ加賀ノスカ川附近（大聖寺）ハ別ナリ 山田孝雄云フ

蒲葵
ビロウナリ昔車ヲフク今笠トナス日向青島、大隅ニ産ス椶櫚ニ似タリ

中雀門
武家ニアリ

圖書寮新築案

二階廳舍同附屬 四百三坪
三階文庫 四百四十八坪
計八百五十一坪
箱數七百

歷代問題

神武ヲ第一代トス明治五年紀元ヲ定メラレシタメナリ
明治二十四年宮相御勅裁
神功ハ代ニ列セズ ○仲哀ト[illegible]応神[illegible]
二十八年上ル所ノ皇統譜如此ト勅裁ナシ

飯豊青ヲ列セズ二十八年同同上　○清寧十一條　仁賢 億計　顕宗 弘計

弘文ヲ列ス三年ノ謚、大正五年図書頭列スベシト宮相

ニ言フ　淡海 弘文 ○天智――天武、皇太子、淳仁 至孝

淳仁淡路　三年ノ謚、淡路廃帝、舎人親王子、天武孫 孝謙皇太子

仲恭九條　三年ノ謚、九條廃帝、順徳子、泰時

南朝正統　四十四年大正首相仰勅裁

長慶　大正五年列スベシト図書頭宮相ニ言フ

安閑　大歳甲寅云々

天智持統　称制為元年ト即位為元年トノ二説アリ

安徳　後鳥羽　両帝並立ヲ認メンヤ否未定　○後白河ノ上 安徳 後鳥羽

○(加)

院號

後西院

宇多　後桃園

二十八年院天皇ト称ス

陽成宇多ハ生前称院

後村上無院號

經體二十五年ノ辛亥經體崩ハ宣化崩ノ誤

實錄

仍ルベキ皇族　五千人　男二千四百二十八人　女三千人

維新後薨去ノモノ六十八人　夭札ヲ除キ五十人　四十七人

孝明紀ヨリ松浦辰男撰ス

譜牒

妃欄ハ大欄ニ次グベシ

譜ニ系図ヲ附スベシ 系図ハ繁ニシテ見易カラズ

綴目ノ印ヲ綴絲ノ印ト改ム 和洋綴ハ未定

親王即位ノトキ第十四條ノ移記アリ重複ヲ避ク

譜ノ宮號ハ典範ニ無キユヘ削リタリ

譜令第二十八條ノ末ニ親王妃ヲ脱ス

中宮ヲ皇后トシ井上毅固否ズトスル説 多田好問アリ

細則ニヨリ旧譜ヲ改メ勅裁ヲ乞フヲ要ス 大統譜、伏見

宮邦家以下、有栖川宮ハ先ヅ成ルヲ要ス

人物

大島仲太郎、堺市助役、国漢学

橋本信吉、大学国語研究室

竹中某、鑑刀家、宮本包則云、在宮内省

濱田雲溪、渋谷中坂住、彫刻家、宮本知人、

杉山セイスケ、女畫家、同上知人

木鎌林吉、四十二三歳、市谷士官学校前住、同上知人

栗原信秀、刀工、自大坂来住白山、四座清九門、同上知人

史料

先孝ニ至ル　六国史

先孝ヨリ後一條ニ至ル　塙史料

後朱雀以下　大學史料

後小松ニ至ル　大日本史

光格ニ至ル　野史

仁孝、繁子、祺子

孝明　先帝御事跡取調掛ヲ置キシコトアリ

白川子爵家

藏本

人事

加藤八重麿、飯田町六丁目二十六番地住、陶氏遺書

價四萬圓ノモノヲ將來ス

中根粛二、日本人著書目録ヲ作ル

玉田、先帝繪巻ヲ作ル、嗣猪之助、門人杉本碧海、

又野村雪香モ亦此事ニ關ス

聖影

宣詔禁為護之輕人命

祭式

宣導時宜改、

朝鮮 李氏譜牒

武田尚、在宗秋齋崔其亭

奎藏圖書

三萬部二十萬冊

博物館費概算

歳入

三萬圓 利足

三萬圓 觀覽料

二萬圓 雜収

十三萬圓 帝室費

二十萬圓

歳出

館 圓 一月五万人

東京一月一万人 京都千五百人 奈良千人

俸給

高等官

課長 五〇〇〇圓

主事 五〇〇〇

鑑査官 四五六七

計 一四五六七

判任官

属十六人 一〇七五二圓

技手卅五人 二六四六〇

雜仕百十六人 二四三四八

小者三十九人　八四五六

計　七〇一六

総計　八四五八三

○

列品購入費　二万六千三萬圓

圖書購入費　八百七十圓

印刷費　一千五百圓

○

兼務者　三宅米吉　高等師範學校　高橋健自　美術學校、国学院、徵古館　關保之助　遊就館、徵古館

校史費

三年七千五百圓

一年二千五百圓　二千四俸給手當、五百圓旅費寫字費

館附屬地

勸業協會、國産奨勵會

建坪一年十錢附屬地五錢ニテ五年貸ス大正十一年二至ル一年貸料三千三百一圓二十錢、轉貸一月二千五百圓

日本美術協會　一年經費七万千五百九十四円

借地料上納猶豫大正九年一月　カキカ一

竹臺陳列所

茶話會ニ貸ス

平井新太郎 新名

橐駝師

茶肆

一年一榻五圓

四聖坊記 巳未

二

A 90
264

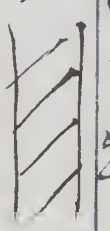
東京帝國大學圖書印
B 23475
0004320354

織紝記

縒（搓）

右縒（搓）は右手を前へ出し、左縒（搓）はこれに反す。

左



右

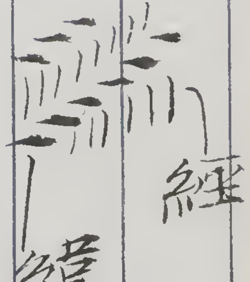
右靹繪は右手を左へ突き出したる形なり

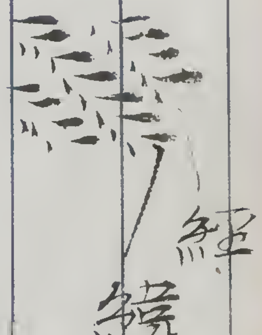
綾

斜にて經地をなし、緯文をなす。經見ゆるを表とす。

鷗叶藏書

斜

表


裏


錦

緯太く見ゆ。斜ちらめゐのめあり。

ゐのめ

紹巴織

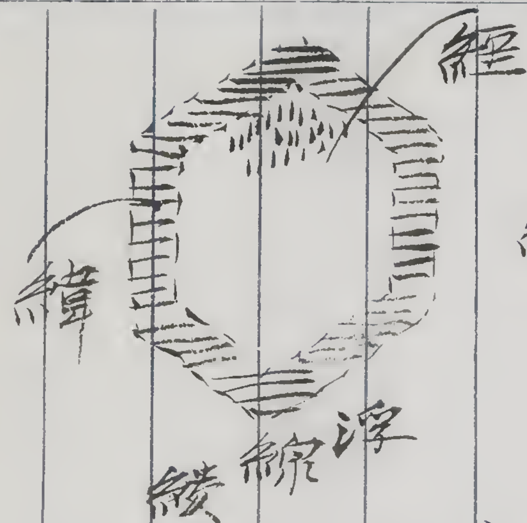
斜の往反するを謂ふ。

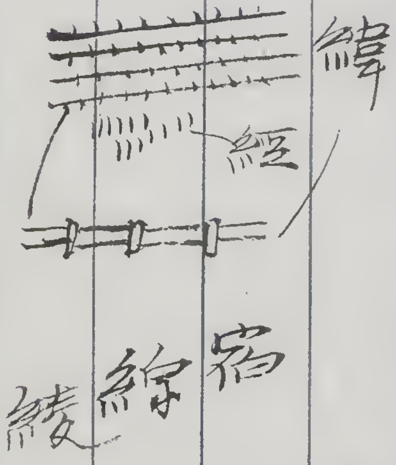
用紙 奈良明新社

菱大和錦

緯文をなして、其間に經見ゆ。

浮線綾宿線綾

緯の文自由に走るを浮線と云ひ、所々に約せられたると宿線と云ふ。


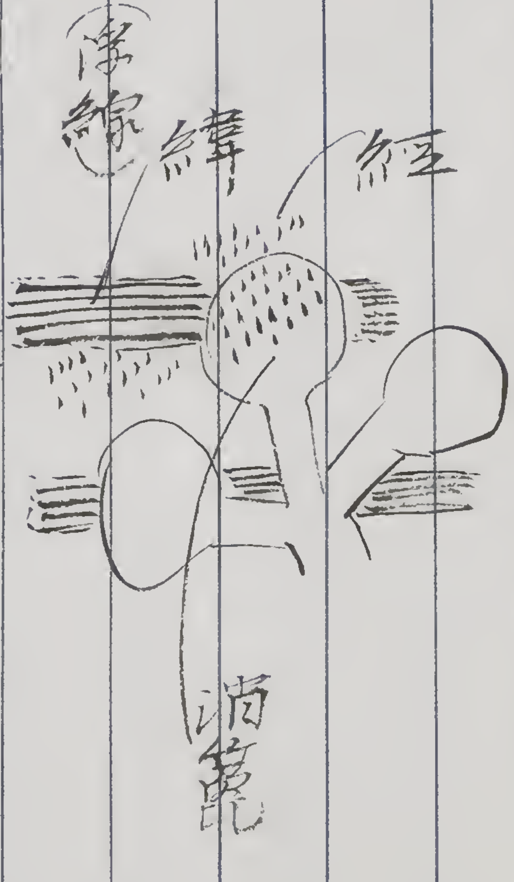


蜀紅錦は

宿線なり。

浮線綾に消跪を用ゐたり。

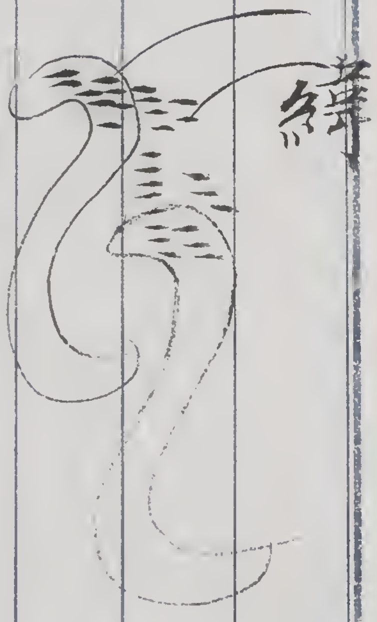
唐織



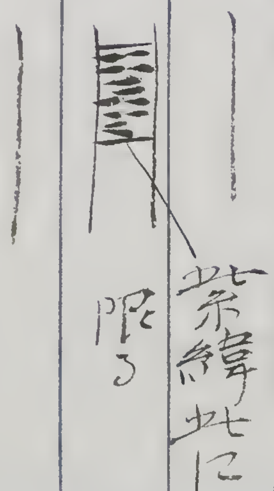
綴錦

文も地も皆緯のみ見ゆ、経の見ゆるは拙工

なり。



緯の幅狭き所に往反するあり。



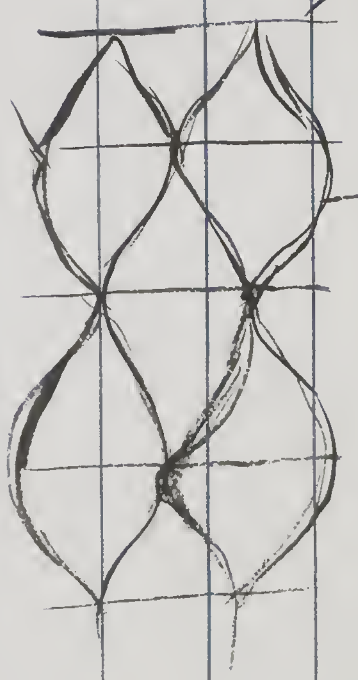
有職文も亦同じ。

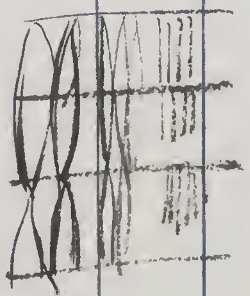
綴は表裏全く同じく、裏には剰線の長く出でたるあるのみ。これを切れば別なし。

羅

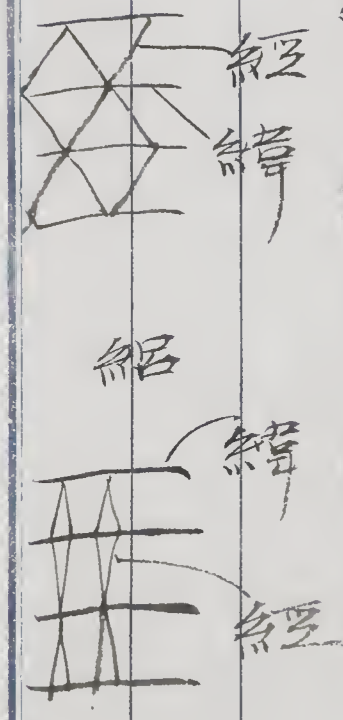
經綟をなし、緯これを貫くなり。

細目狭きときは辨じ難きに至る。





今の絽、紗は経横に連ならずして、縦に並びたり。

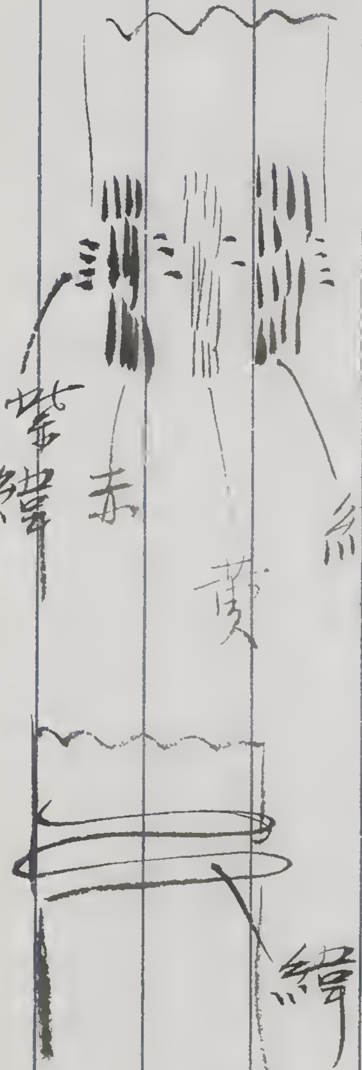


印刷 奈良明新社

紗の稍古きは大灯国師血染の袈裟のけんもんしゃなどなり。

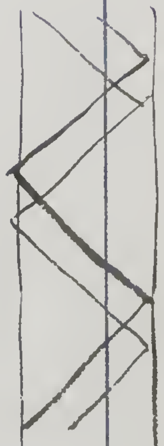
綺

経多く見えて、緯は稀に見ゆ。奥田織なり。緯は往反す

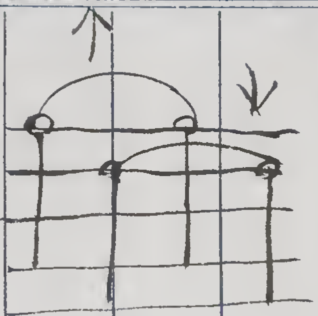


細綾

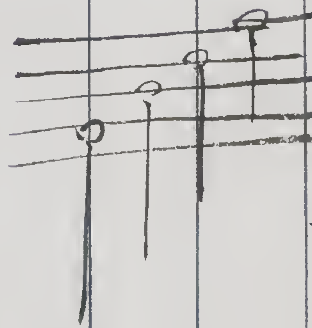
しりぎぐみなり。



機數



二機　四機　一つゞ上下す。



風通

寸數は出來ぬゆゑ五機は六八等となる。

廿七間透り五五五り

染料

古は植物色を用ゐるゆゑ久しきに堪ふ。鑛色色はこれに及す。

古き綴錦に腐蝕して斷れたるあるは、附子鐵(かね)(Beize)を用ひしところなり。

經

今經いと一寸四十本なり。古く一寸五六十本

印刷 奈良明新社

なるあり。

右伊達彌助語

印刷 奈良明新社

陶磁記

地に吸水性あるを陶とす。Pottery なり。 陶

地に吸水性なし。透明なるあり。清水焼の如し。Porcelain なり。 磁

不透明なるを火石器といふ。萬古焼の如し。

Keramik

陶磁はさらなり、土器の事を併せてか

く云ふ。

典據

Jacob von Falke, Aesthetik der Kunstgewerbe.

Semper, Stil.

右の外に書なし。Grosse 稍参照すべし。

右奥田誠一語

紙記

麻紙

裏に粒あり。

穀紙

裏に纖條あり。

ダビ紙

麻紙の裏の粒多く表に出でたり。

粉葉

でつてふと云ふ。

けい紙

印刷 奈良明新社

隋以上の紙、桑にて造る。

右黒板勝美、上田稔語

印刷 奈良明新社

古寫經記

松宮内印

松宮内印ノ印ト東大ノ印ト中村雅真蔵大毗婆娑論ニ並存ス見ル所ハ巻三ナリ

元興寺經

重圏内に元興寺印ノ四字アリ中村雅真蔵佛説華聚陀羅尼呪經一巻ニ存ス

攷古雑語

多賀常欧

江戸の有職家なり。

栗原柳庵

妄誕多し。大覚寺の捻り類なり。其為後骨董商となりて武田氏と称す。明治十年の比生存せりき。

土器

土器師さわらぎは洛北みどろが池に住みき。伏見の土器は後の事なり。

大冢嘉樹

橋姓なり。

祭

平安神宮ノ祭は悪し。

筋

筋の木一位の木、あらゝぎ等の説あり。奈良にふくらの木又ふくらしばあり。筋に作るといふ。

正倉院の北倉の筋は白き堅き木なり。

萱

印刷 奈良明新社

つゞらなり。近江國水口にて造る。

山田常典

丹鶴叢書の筆工なり。

嵯峨板

角倉與市の板なり。光悦流の連綿假字なるも活字なるが如し。

樺

俗にかばざくらと云ふ。笛、矢などの巻皮なり。

欟

つきは弓材なり。けやきの類。

圓光寺板

朝鮮より足利學校にもち來り次で伏見圓光寺板とせしなり。

紅

紅に青光あらしむるは生梅の酢を加へてなす。

雲母

雲母を粉碎するに瓢簞の凡にて磨るとかや。

印刷 奈良明新社

岩倉氏の子

岩倉具視の子正智院は奈良興福寺の僧なりき。彼黠無學にて廢佛の魁をなりき。

古墳時代の鑿

古墳の鑿痕は皆九分と一寸五分との幅なり。手斧形の鑿なるべし。

造殿儀式

伊東忠太の書に引けりといふ。偽書か。

心の柱

神社の心の柱は出雲大社にあり。伊勢太神

宮にては床板にだに置かず。神官自ら立つるなる、番匠は知らず。

梓

みづめ又よくそみねばりとする說の外に豊田八十代の說あり。奈良にていふはづさの木なりとかいふ。

玉帚

奈良にある高野帚なりとかいふ。

修二會

奈良二月堂修二會の食器一具二百五十圓

印刷 奈良明新社

なり。樺山愛雄の妻二十人前と作らしむ。價五千圓。

春慶塗

正倉院の短き彈弓は春慶塗なり。

平文、平脫文

平文は漆と銀と平にて、平脫文は銀高く漆低めにや。漆はみがかずてあり。

黒漆、朱漆

織分ある黒漆は古くはなき如し、朱漆ありやなしや。

琉璃鈿

今は七寶なり。

冠

正倉院の弁は四角の残欠なり。冠帽圖會は帝妃の日章下なる雲形と唐花とを顛倒す。

釵子

寶髻に釵子平額の事諸書錯れり。

印刷 奈良明新社

辛菱

古くさきはひびしと唱へ先間菱と書きしを謬りて千劔菱とせり。

縫腋

闕腋の例なりとて縫腋をはうてきとよむは文盲なり。

石菖

經に入れて蠹蝕を防ぐ。

澤栗

琵琶の材なり。

樹脂

杉、槻は二百年の古材といへどもひきて板にすれば脂出づ。

鮫皮

鮫皮の紅點は變質ゆゑ除き難し。

硏異字

羅氏撰なり。

だみ出し

平文に銀を貼し、上に面に漆を衣せ、漆の銀上にあるを削りてあり。銀を貼し、周圍に漆を塗るあり。後なるをだみ出しといふ。銀の彫に小刀とたがねとあり。

麻ものひだ、絹もののひだ

此語未だ詳ならず。

鵄尾琴

未詳。

小津久守

觀正倉院記あり。見窮會に藏す。

天橋立

印刷 奈良明新社

岳井行の云はく。天橋立は畢宿に象る。畢は天の階なり。兎罝の形なり。畢昴の間は天衢なり。山陰山陽の界とせるなり。

浦島子

浦島は欝陵島又于山国、うさのたしまなるべしと岳井行云ふ。

龔孝拱

龔定庵の子なり。籀文して説文を註す。刊ずからず。近ごろ佯狂す。

朱欄

印刷 奈良明新社

聖武雜集の欄は朱なり。

あららむ

あらむハ古ハ未來ト不定トナリ後ニ別ニあるらむヲ不定ノ格トシ不定ノ格ハあらむ、あるらむ並行セシナリ

十輪經

聖語藏の地藏十輪經は半は東大寺に残れり。

短冊

短冊の雲紋は紫を上下とす。

村田了阿墓は下谷金杉西蔵院にあり
太田全斎墓は芝公園天光院にあり

誰

詩中の誰は不の義なり。

渭南文集

桂氏蔵渭南文集に陳邦瞻徳遠の序あり。

諺叢

太田全斎が北條時代諺留を近藤重蔵に借りて諺叢を作りしこと其記に見えたり。今の俚言集覧或は其書ならむか。書中に「移山案」の文あり。移山の誰なるを知らず。専西寺に父の墓碣あり云々。濱野知三郎云ふ。駒込蓬莱町専西寺か。

菊亭本

博物館に菊亭公規の遺書多し。公規は元禄十年薨ず。

方磬

博物館に調子板と称するものあり。方磬一架に響に作るの残缺なり。

日本書紀

加茂真淵の書入本李王職書庫にあり。

印刷 奈良明新社

西清硯譜

李王職書庫にあり。或は原本にはあらざるか。

麗藏

寺内伯一部を泉涌寺に納め二部を朝鮮總督府奎章閣に託す。予後者の一を図書寮に贈られむことを乞ひて允さる。

經學院、雅樂臺

經學院に釋菜の典あり。總督府監す。雅樂臺は李王職監す。伽耶琴あり。妓生の技

印刷 奈良明新社

の亡滅せむことを惜む。

春日燈籠

朝鮮の製なること佛國寺の石燈に徴して知るべし。

鮑石

鮑石亭は新羅の亡びし時の遺跡なり。鮑石あり。

つゝけり

つはたりに近く、猶繼續す。けりは全く斷絶す。井上通泰の説なり。

白菊の琵琶

藤原師長の遺物井戸田横江氏の家に傳ふ。後熱田神社に入り、徳川氏に移り、遂に御物となるといふ。果して然なりや否やを知らず。

源定靜

金樂堂記に署して、はく。天保九年四月田原渡邉登源定靜並記。

皇室の位牌

初妙法院に安置せられ、後泉涌寺に集めらるといふ。

順徳院の冠

奧平居正奉じて佐渡より京都に入る。明治二年三月二十九日西端八雲の記に云く。神祇官へ玉冠差出候處平田延太郎殿より繕に受取奉り候旨被申聞。

市川其融

谷中の禪寺に葬るといふ。墓の有無を知らず。

裱褾、簽籤

陽齋訓に云く。裱褾へうし、簽籤げだいが

みの。

山陽少時の書

山田陽朔藏。送児玉子貞之京都詩文巻あり。子貞、名は幹。巻は寛政十二年己未に成る。送者は原鉤、子鄉、號蒔菊陰、山口直淳、稱熈伯、劉元高、咸川暉、王民、山元定、子靜、米文嘉、子蘭、坂井積、虎山父、賴襄、劉駿彪、子敦、元高父、以上九人なり。

山田汝淵

山田陽朔の父汝淵、主家淺野氏の纂刪を論じて罪を獲き。交遊に石井士訥、號樸堂、稱雄之丞、黒田益胃、號拙亭、稱益之丞、佐々木群次、後多賀三治、小鷹狩某之丞、後巨作、號柳庵、林他人之助、後木二、號挑溪、黒田息養、稱圖書、坂田大之助、號復堂等あり。

立林何帛

又白井宗謙又宗貫と稱す。名は立德、喜雨齋、鶴岡、金牛の號あり。鎌倉の人。光琳乾山に學ぶ。

岡千仞の子

名を百世といふ。三井文庫の主任なり。

西川吉輔

近江八幡の人なり。王室學を唱ふ。

尾州の國史家

植松茂岳、上田仲敏は国史の校勘に功あり。

常磐日記

撰者土師熊ふ也又維熊又惟熊と署す。未だ考へず。

馬魚

馬魚又のたかといふ。大和國山邊郡永久寺の池に住み、杉菜を食ふ。實は巨椋池、琵琶湖にも栖めり。

いちひ

奈良人いちひの實をいつちんと云ひ、かしの實をかつちんと呼ふ。松崎慊堂いちんの事に書して紀の赤檀を引けり。

縉素往生驗記

勢州縉素往生験記に伊勢人の傳多し。

石川麻呂

印刷 奈良明新社

大和國十市郡山田村に貫名苞撰の碑あり。

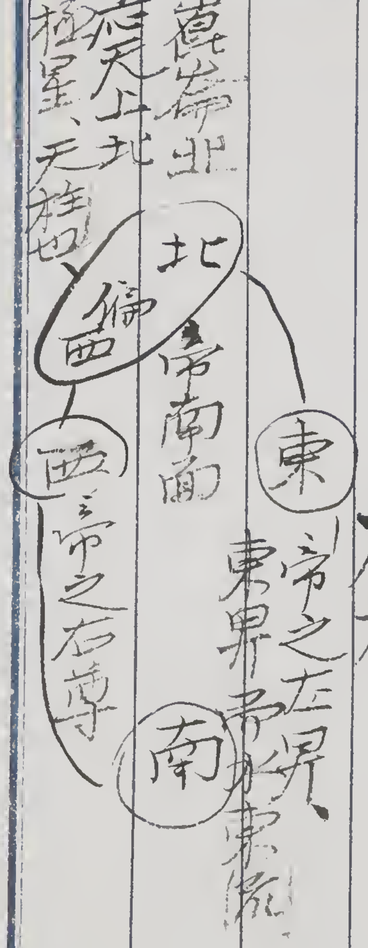
實則　通久

近世公卿の名實則はさねつね、通久はみちひさなりといふ。

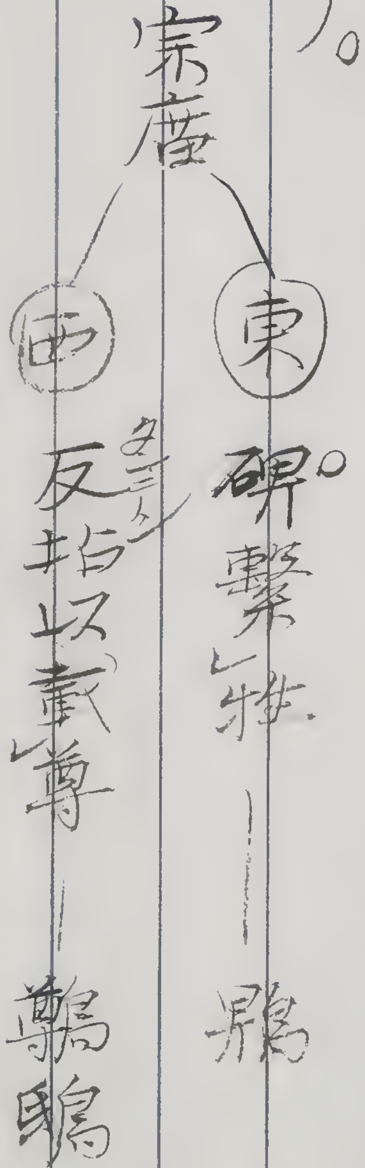
出雲

郡名の出雲にしゆつと、あたかいあうといふ。

左右



夏殷の右尊左昇此の如し。周西より起り、人道を用ひて周廻す。此より左尊右昇となす。漢に至つて夏殷の古に復す。江浙云ふ。左は工に从はずして匕に从ふ。匕は畀の鈎なり。



古書の絹帛

周礼の術はじゆばんなり。綸綺、沙穀はちりめんなり。詩の偕老瑳々とちりめんなり。江浙乎也。

十手

十手の起原は走衆の持ちたりし刃引なり。

不忍文庫

屋代弘賢は其子蜂須賀家に仕へしために藏書を阿波徳島に献ず。故に不忍文庫、阿波国文庫の印ある書多し。

長谷寺

印刷　奈良明新社

文庫に古書多し。

則天字

玉函山房叢書中に集めたり。

山伏

羽黒山、月山は天台宗、湯殿山は真言宗なり。湯殿山は火山崇拝なり。

岡村達

野三と稱す。森田節齋の門人、藤川冬齋の子なり。現に生駒に住す。

舊跡幽考

大和の地志なり。

竹林院

生駒竹林院行基の塋と稱するあり。

古屋

鶴岡の邊に百年前の家あり。床下に金網を張れり。

蘭亭図

名古屋に近きさやに寺あり二池大雅の蘭亭図を藏す。竹内正策云ふ。

鱸室

印刷 奈良明新社

嘉永中の人なり。平家物語の奥書あり。

印刷　奈良明新社